

広報

班宛

NO 14

3月29日 3時5分

FAX 送付状

枚数 (表紙含む) 5 枚

ERG プラント班 FAX: [REDACTED]

←東電内保安院分室 [REDACTED]

件名

TEPCO プレス キット メモ
企調課 吉田 ケン メモ です。
TEPCO 版は 手紙 です!!

東京電力記者会見

<福島第一原子力発電所構内における土壌中の放射性物質の検出状況について>

(資料について説明があった後、質疑応答)

- Q. 放射能比の違いに関することについての説明は？
- A. 核実験により生成したプルトニウムの観測記録との比較を5地点で行った。プルトニウム238は、原子炉の中でウランが長い間照射されることで生成されるもの。今回測定した土壌は、核実験のような瞬時の照射で出てくるプルトニウムと比べて、この238の割合が多かった。
- Q. 破損した燃料棒からか？
- A. 今回の事故で損傷を受けた燃料棒から出た可能性がある。
- Q. ①のグラウンドから出てきたプルトニウム238は、 4×10^{-1} とあるがこれは国内の土壌から出てくる 1.5×10^{-1} の3倍ではないか。これは通常のレベルと比べて大きいと言えるのではないか。
- A. プルトニウム239とプルトニウム240を含めた絶対値においては、環境土壌中で観測したものと違いはない。
- Q. プルトニウム238が人体に与える影響は？
- A. 一般的なプルトニウム239、240の違いはない。
- Q. この調査結果はどこの機関に依頼し、どれくらい期間がかかり、いつ結果が戻ってきたのか。21日、22日の調査以降も依頼しているのか？
- A. 今回は21、22日に採取し、測定の関係機関の分析を23日に実施、そしてその結果の報告が本日あった。依頼したのはJAEA。今回結果が出たので、引き続き3カ所の調査を行い、毎週2回継続的に依頼していきたい。
- Q. この3カ所の調査は今日から実施か？
- A. 今日から3カ所の調査を実施する。
- Q. 今回調査を行った5カ所からは変更があるのか？
- A. グラウンドはそのまま計測し、①と④の中間に新たに一点設けた。
- Q. プルトニウム238はいつ頃土壌に到達したのか？
- A. 今回の結果だけではわからない。
- Q. 今後の測定は3カ所とのことではあるが、敷地内だけなのはなぜか？
- A. まずは、この3地点でサンプリングを行う。それ以外の場所は、今後の結果を見て判断する。
- Q. 5カ所のサンプリング場所におけるプルトニウムは、過去の核実験の影響とわかるのか？
- A. 一般的にプルトニウムの比率は原子炉内で照射されることで出てくるもの。②、③、④の場所は元々存在していた可能性がある。ただ、あまり照射されずに出てきたプルト

ニウムもある可能性も否定できない。

Q. 今回プルトニウム238が検出されたことは、チェルノブイリを除きめずらしいものか。

A. 確認する。

Q. 国内や東電ではどうか？

A. 他の例や、過去の発電所のサンプリングに関しては確認する。

Q. 今後のサンプリング場所を選んだ理由。

A. いろいろな方向のデータをとること。発電所の1号機、2号機から500メートルの距離で、サンプリングを実施しやすいひらけた場所を選んだ。

Q. 今後空気のサンプリングはとるのか？

A. ダストのサンプリングは結果ができ次第報告する。

Q. 3号機のMOXの影響は？

A. ウラン燃料を照射することでもプルトニウムは生成される。また、各号機において燃料が損傷しえちる可能性がある。そのため、今回のサンプリングにおいてプルトリウムがどの炉からのものかは特定できない。

Q. プルトニウムは飛散しにくいといわれているため、かなり大きな損傷があるとは言えないか？

A. 全体のメカニズムが特定できておらず、どうやって外に出てきたかは、まだ特定できていない。

Q. 原子炉に近い場所の濃度はどうか？作業環境に影響はないのか？

A. 今回のレベルは、国内での検出レベルと比べ大差ないため、作業員に関しては影響ない。

Q. 原子炉の近くではどうか？

A. 原子炉の近く及び距離をおいた地点においてのサンプリングの結果には、大きな違いはなかった。今回の値は、もともと土壌の中で存在している程度。

Q. 作業員に影響がないということは、1週間の調査期間で影響が変わるのではないか？

A. プルトニウムだけが単独で外に出てくるわけではないため、 α 線量率を測定していれば、全体の様子はわかる。

Q. これからも測定に一週間かかるのか。

A. かかる。

Q. プルトニウムは一般的にどれくらい飛散するのか？土壌にしみこむのはどれくらいなのか？

A. 確認が必要であるが、もともと存在するレベル。またこの測定結果からはどれくらい飛散したかを測定することは難しい。

Q. プルトニウムの検出について国に報告したのか？そのときの国の反応は？

A. 報告はした。コメントは特になかった。

- Q. これからもプルトニウムの検出は増加するのか？
- A. 引き続きモニタリングを継続する。
- Q. どれくらいの量が検出されれば人体に影響があるといえるのか？
- A. α 線の各種は紙一枚で遮られる。全体として皮膚を透過しない程度。外部被曝の影響はないと思う。
- Q. 原子力安全委員会の斑目委員長が本日の会見で、ペレットも溶け、燃料棒もかなり損傷しているとのことであったが、東電との温度差があると思う。どうか？
- A. 燃料棒の損傷に関して、それだけ溶けているか判断することは難しい。原安委はその指摘の可能性を述べているもの。
- Q. 今後、プルトニウムの検出はどれくらいの期間でとまるのか？
- A. これまで、原子炉に水を入れるなど放射能を減らす努力をしてきた。今後もとにかく押さえる努力をしていきたい。
- Q. 半減期は？
- A. プルトニウム239が24000年。プルトニウム240が6600年。プルトニウム238が88年。
- Q. プルトニウムの測定はキロあたりではなく、単位面積での測定が重要だと思うが、単位面積あたりの測定結果はでないのか。
- A. 微少な値なので、これが一般的な値。
- Q. プルトニウムの α 各種は牛乳、飲料で1Bq/kg。グラウンドでの測定結果はその半分ではないのか？そのため単位面積をしっかりと測るべきではないか。もっと近くはひどいのではないか？
- A. プルトニウムトータルとして考えるのであれば、今回の測定結果の水準は国内の土壌における測定結果の範囲に入っている。
- Q. 今回のサンプリングの仕方は、どのような土か。どうやってとったものか？
- A. 表土であり、数百グラムのオーダー。一般的なサンプリングの指標。
- Q. 今回のサンプリングの結果は想定範囲内か？
- A. 事故の状況の中で、燃料棒からプルトニウムが出てきたのは否定できない。しかしながら、測定レベルは通常われわれが環境のサンプリングするものの範囲内。
- Q. 厚労省のHPにおいて、プルトニウムの濃度に関して、238、239、240のトータルで1Bq/kgとなっている。これと比較すると超えているのではないか。
- A. 国内の土壌の様々な地点で環境モニタリングを実施した範囲内には収まっている。
- Q. 厚労省の基準を超えているのか？
- A. . . .
- Q. 具体的には、どのレベルになれば危険なのか？
- A. モニタリングを実施していく。
- Q. 基準値がないとモニタリングの意味がないのではないか？

- A. 発電所の中でモニタリングを行い、変化があったものを見ていく。
- Q. 健康における基準はないのか？
- A. 基準は確認する。
- Q. 厚労省の基準を確認せずに安全を確認したのか？
- A. 国内の土壌の様々な地点で環境モニタリングを実施した範囲内には収まっている。
- Q. 止める、冷やす、閉じこめるは機能したのか？閉じこめる機能は破綻しているのではないのか？
- A. 放射能による何らかの影響は出てきている。全体的には、原子炉内に放射能はとどまっている。今後も出てこないように努力していく。
- Q. 今後も検出量は増えていく認識か？
- A. どういった傾向になるのかを念のために確認していく。
- Q. プルトニウムの検出が作業員に与える影響は？
- A. 検出されたプルトニウムの濃度は、これまで環境モニタリングを実施したものと同等。作業を行う上での線量に大きな影響はない。
- Q. 作業員には知らせたのか？
- A. 知らせる。
- Q. 念のためのモニタリングとはそういう意味か？増えるということか？
- A. 引き続き増えないことを確認するため、これまでに大きな影響があったとは思わないが、今後も確認していきたい。
- Q. プルトニウムが非常に強い毒性を持っていることは認識しているか？
- A. 体への入り方にもよるが、取り込みみ方によっては・・・経口摂取の場合は吸収されないため影響は小さい。
- Q. 影響が大きいのはどういった場合か？
- A. 経口摂取の場合は吸収されないため影響は小さい。
- Q. 肺からの摂取は影響が大きいと聞いたことがあるがどうか？
- A. 呼吸によって取り込んだ方が長く影響があると聞く。肺の場合はそこにプルトニウムが居続けるので、影響は大きい。ただ、今回の場合は問題のない量である。
- Q. 対策は？
- A. 今は大気と同じレベルと考えている。
- Q. たまり水からも出ているのか？
- A. 水のサンプリングについては考える。
- Q. 水からも出てくる可能性は？
- A. プルトニウムのお出き方の問題もあるが、水に溶けて出てくるもの、粒子状で出てくるものいろいろある。今後水のサンプリングも検討していく。
- Q. 現在の作業場所付近ではサンプリングは行わないのか？
- A. 今はこの3点で行う予定。